

第1節 将来都市像

第1章で示したように、総合計画は、市民・事業者・行政などさまざまな主体が協働でまちづくりを進めていくための指針となるものです。そして、前章で確認したように、厳しい状況の中で何よりもまちづくりに求められるのは、箕面市まちづくり理念条例に掲げられた諸理念を踏まえつつ、自助・共助・公助の役割分担の原則に基づく協働のまちづくりを推進し、「箕面の魅力アップ」を図っていくことです。

これらのことを踏まえ、第五次箕面市総合計画において、めざすべき将来都市像を以下のとおり設定します。



ひとが**元気** まちが**元気** やまが**元気**
～みんなで作る「箕面のあした」～

将来都市像に込めた想い

わがまち箕面が、いつまでも活力のあるまちであり続けたいというのは、みんなの願いです。少子高齢化、都市基盤の老朽化、中心市街地の活力低下、時代とともに失われてきた自然環境など、「ひと」「まち」「やま（自然環境）」に関するさまざまな社会課題をプラスに変える、元気な箕面こそ求められる都市像です。

将来都市像には、次のような意味が込められています。

ひとが元気…一人ひとりがそれぞれのスタイルで、健康で安心して心豊かに暮らし、高齢者と若い世代の交流など市民がお互いにかかわりあいながら、元気に生活するまち

まちが元気…道路や公共施設が整備され、医療、商業・サービス業など市民の生活に密着した機能が確立し、暮らしを支えているまち

やまが元気…みどり豊かな自然を守り、人が自然とふれあい共生しているまち

みんなで作る「箕面のあした」

箕面の魅力であるみどり豊かな住みよいまちを次世代にも引き継いでいくため、市民、事業者、市民活動団体、行政など、みんなで元気な箕面をめざしたまちづくりを進めていこうという強い意志



総合計画が描く 都市イメージ



第五次箕面市総合計画では、「ひとが元気 まちが元気 やまが元気」な「箕面のあした」をみんなでつくっていくことをめざしています。この将来都市像を実現するためには、箕面の魅力アップを図ることにより、若い世代の流入と住民の定着を促し、さらに地域資源の増加へとつなげていく好循環（スパイラルアップ）を生み出すことが必要です。

ここでは、第五次箕面市総合計画を推進することによって、めざすべき将来都市像に向かっていきいきとした発展を遂げていくこれから10年間の箕面の姿を描くとともに、その先にある未来の箕面へ向けた歩みを映し出していきます。

箕面の**魅力**アップ

多くの人々にとって、箕面の最大の魅力は、北部に連なるあざやかな山なみ景観やまちなかの樹木や田園といったみどりの豊かさにあります。このような優れた環境は、箕面だけでなく市域を越えた大阪のみどりとして、ますます貴重な財産となっています。この豊

かなみどりを守り育てるため、多くの市民・団体が行政やみどりの所有者と協働して活発に活動し、**みどりがあふれる住宅都市**として魅力をさらに高めていきます。

また、箕面の次世代を担う子どもたちや若者世代をはぐくむため、保育所の待機児童を解消するとともに、地域住民同士での子育て支援を活性化します。学校やコミュニティセンターなどのさまざまな公共施設が「子育ての場」として提供され、子育てサークルなどの市民活動団体による多彩なイベントが開催されます。学校やさまざまな団体、地域が連携することで、親子と高齢者など世代間の交流も進み、子どもたちが健やかに成長でき、子どもたちの笑顔と歓声にあふれる**子育てしやすく教育環境の整った都市**となります。

さらには、地域住民の暮らしやすさや働きやすさを一層向上させ、都市骨格の背骨となる鉄軌道「北大阪急行線の延伸」が実現します。これは大阪の大動脈である地下鉄御堂筋線と直結することで、かやの中央地区（箕面新都心）や船場地区から大阪都心部まで乗り換えなしのアクセスが可能となり、利便性が大きく向上します。また、鉄道の延伸によりバスと鉄道の結節点を市内に移し、東西のバス路線網を大幅に充実させることで、**自動車に依存しない公共交通機関が便利な都市**が実現します。

このように、今後10年の間に、豊かなみどりを守り育てるとともに、より子育てがしやすく、そして交通機関が便利になっていくことで、箕面の魅力アップが進んでいきます。

若い世代の流入と住民の定着

箕面の魅力アップが実現すると、若い世代の流入と住民の定着が進みます。

鉄道の延伸により、みどり豊かな環境を備えた良好な住宅都市としての価値がさらに高まっていくとともに、バス路線網の充実と併せて市内外への通勤・通学・買い物などの利便性が向上することで、**働く世代や学ぶ世代**



が暮らしやすい都市として、若い世代を中心に人々の流入を促します。

さらに、公共交通機関の利便性が向上することで、定住人口を増加させるだけでなく、市外からより多くの買い物客や観光客を呼び込むことにより、観光・商業が活性化し、若い世代のみにとどまらず**さまざまな人々の間で交流が生まれる活力あるにぎやかな都市**へと発展していきます。

鉄道の延伸は、バスと電車の乗り換えの充実やバリアフリー化により、高齢者や障害者をはじめとするすべての市民の移動しやすさを向上させます。また、自動車による道路混雑を緩和することにより、二酸化炭素の削減を可能とします。このように、**人と環境にやさしい都市**をつくっていくことで、住民の安心な暮らしを支えています。

また、市内には多くの留学生や外国人が暮らしています。言葉の壁の解消や相談支援活動などを進めることにより、新たなビジネスや研究に携わる諸外国の人々との交流が生まれ、**魅力ある多文化共生の都市**としてさらなる国際化が進展します。

こうしたまちづくりを進めることにより、若い世代をはじめとして人々の流入が促され、まちに定着していくことで、箕面の地域資源の増加へとつながっていきます。



地域資源の増加

箕面の魅力アップが実現し、若い世代の流入と住民の定着が進むことで、まちが大きく発展していくとともに、「ひと・もの・かね・情報・ノウハウ」といった地域資源が増加していきます。

このように新たに生まれてくる地域資源とこれまで箕面が培ってきた豊かな地域資源を組み合わせ、活用していくことにより、めざすべき**「箕面のあした」**の実現に近づいていきます。

これから新たに生まれる地域資源として、箕面森町（水と緑の健康都市）や彩都（国際文化公園都市）において新たな住民の流入

と定着が進むとともに、箕面の最大の観光資源である箕面大滝と滝道の魅力をさらに高めるための箕面駅周辺の整備や、地域商業の再生とにぎわいの創出を図るための桜井駅前整備により、まちの姿は大きく変わっていきます。

また、これから10年の間に、まちを支え



る新たな交通体系として北大阪急行線の延伸や新名神高速道路の開通が実現し、まちの整備との相乗効果によって、箕面のまち全体の価値を底上げしていくことで、**地域資源を守り育て、さらに生み出していく都市**となっていくます。



地域資源を生かした**新たな都市**の姿

新たな地域資源の中でも、特に鉄道の延伸は、都心部へのアクセスをはじめとする利便性の向上やみどり豊かな住宅都市としての箕面の価値を高めることももちろん、延伸に伴って新駅が設置されるかやの中央地区や船場地区の姿を一変させていくものとなります。

かやの中央地区については、大規模商業施設を拠点として整備が行き届きつつあり、商業地・住宅地としてだけでなく、北部に連なる山なみと東西に広がる田園風景に包まれた豊かさをはじめとして、都心部にはない価値を持っています。鉄道の延伸は、人々の交流や商業の活性化を通じてその価値をさらに高め、**みどりに包まれた商業・生活圏を持つ希少価値のある都市**となっていくます。

そして、まち開きから40年以上を経過し、まちの更新期を迎えつつある船場地区は、これまで展開してきた繊維卸商の流通拠点としてのまちから転換し、箕面を大きく発展させる可能性を秘めています。鉄道の延伸により、大阪都心部の民間企業とのかかわりを深め、大阪北部随一のビジネス圏を形成していくとともに、近隣に集積している大学や研究機関へのアクセスが向上することで最先端の知的資源を活用することが可能となり、産・官・学の連携による大学発ベンチャー企業を生み出すなど、**「地の利」と「知の利」を生かして新産業を創り出す都市**へと生まれ変わっていきます。





このように、これまで培ってきた地域資源を活用するとともに、新たに生まれる地域資源と組み合わせ、さらに次の世代へとつながる地域資源を創出していく好循環（スパイラルアップ）を生み出すことにより、暮らし・経済・環境のバランスのとれた発展が進みます。

まちの発展とともに人々の暮らしもより豊かなものとなり、めざすべき「ひとが元気 まちが元気 やまが元気」な「箕面のあした」へと向かっていくこととなります。

めざすべき「箕面のあした」に向けて

「箕面の魅力アップ」から「若い世代の流入と住民の定着」、そして「地域資源の増加」という好循環（スパイラルアップ）を生み出し、めざすべき「箕面のあした」を実現するためには、自助・共助・公助の考え方を基本として、行政はもとより、市民、市民活動団体、事業者などすべての主体がまちづくりの担い手として参加・参画する「協働によるまちづくり」を進めていくことが重要です。

また、行政は、厳しい財政状況から脱するため、不断の行財政改革を着実に進める一方で、未来の箕面の姿を市民や市民活動団体、事業者などと共有し、そのために必要な施策を迅速かつ柔軟に展開します。

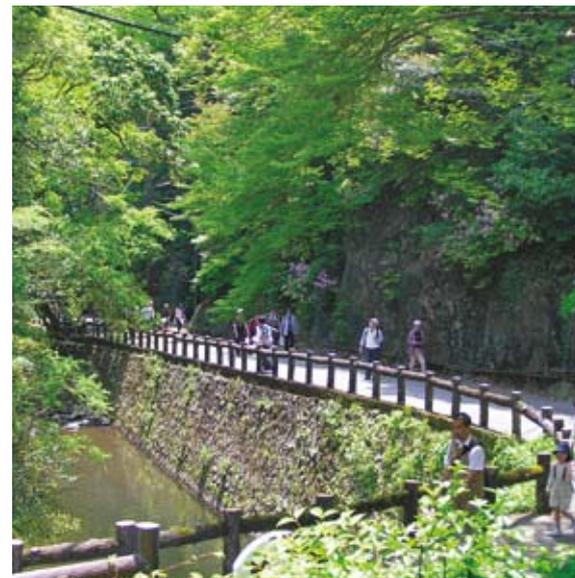
第五次箕面市総合計画を推進することにより実現していく10年後の「箕面のあした」と、その先にある“夢と希望にあふれた未来の箕面”をめざして、21世紀型の持続可能な都市をみんなで作っていくことが求められています。

夢と希望にあふれた未来の箕面へ

経済環境が一層厳しくなり、社会情勢が激しく変化していく中、みんなで“夢と希望にあふれた未来の箕面”を紡いでいくことは、これまで築いてきたまちの豊かさをより高め、次の世代へとそれを引き継いでいくための大切な営みです。

箕面には、夢と希望を実現するための環境や地域資源、人々や組織の活力があふれています。

第五次箕面市総合計画は、それら一つ一つの輝きと、めざすべき「箕面のあした」へ、そして“夢と希望にあふれた未来の箕面”へと向かうための道筋を描いています。



都市イメージ図



	国定公園		自然保全ゾーン (近郊緑地)		環境形成帯 [※]
	山なみ景観保全地区		市街地ゾーン		都市拠点
	バス路線網のイメージ (イメージ) (トンネル)				

第2節 将来人口

第五次箕面市総合計画の目標年度である2020年度（平成32年度）における将来人口は、おおむね13万8千人と想定します。

わが国の総人口は、2005年（平成17年）に初めて死亡数が出生数を上回る自然減となり、減少局面に入りつつあることが明らかになっています。

本市においても、少子化の進行や近年の社会動態が今後とも継続していくことを前提とした場合、既成市街地の人口は減少傾向にあります。

しかし、子育て支援策や教育環境の整備充実などの施策によって、箕面の魅力を高め、新市街地を中心に子育て世代など若年層を呼び込むという政策効果を考慮し、2022年度（平成34年度）までは人口の微増傾向が継続すると想定します。ただし、今後の社会経済状況が、箕面森町、彩都、小野原西地区の新市街地での住宅供給計画や消費者の動向に影響を与え、その影響が人口増減を決定する要因である社会移動（転入及び転出）を大きく左右することから、適宜人口推計を見直して、その結果に応じた施策を展開します。

総人口及び人口構成比率（3階層別）の推計

